

「構造最適化の最近の発展と設計への応用事例」

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 応用力学運営委員会 構造最適化と協創小委員会

近年の計算技術の発展は著しく、複雑な構造物の数値解析が可能となっている。さらに人工知能や機械学習の発展を背景とし、工学の多くの分野で設計プロセスに数理的ツールを採り入れる機運が高まっている。最適化はこのような数理的ツールの一つと位置づけられる。建築分野においても、構造最適化を何らかの形で応用した事例報告が増加しており、研究者と技術者それぞれの役割と関係を再考すべき時期が訪れている。本シンポジウムでは構造最適化を主題とする理論、応用研究、具体事例を解説する。なお、『応用力学シリーズ14：構造最適化の最近の発展と設計への応用事例』（2020年5月刊行予定）は、シンポジウムの参考資料として役立つ。建築構造技術者、大学院生、若手研究者の方々の積極的な参加を期待したい。

日時：2020年5月18日(月) 13:00～18:00

会場：建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

【プログラム】

1. はじめに	山川 誠（東京理科大学）
2. 基礎編	司会：永野康行（後掲）
① これからの構造最適化と設計	高田豊文（滋賀県立大学）
② 最適化概論	寒野善博（東京大学）
③ 骨組構造・構造部位	松本慎也（近畿大学）
④ 耐震設計・ロバスト設計	藤田皓平（京都大学）
⑤ 構造形態創生	和田大典（梓設計）
⑥ 構造形態創生の実践例	木村俊明（名古屋市立大学）
3. 応用編	司会：松本慎也（前掲）
⑦ 構造設計者の思考調査と最適設計解	永野康行（兵庫県立大学）
⑧ トータルデザイン事例	笹谷真通（東京電機大学）・天野 裕（Arup）
⑨ 教育での実践	小野聡子（近畿大学）
⑩ 最適化ツールの現状と分析	國光修五（ユニオンシステム）
⑪ 実設計における最適化ツールの導入方法例	國光修五（前掲）・多田 聡（構造システム）・藤田皓平（前掲）・松尾智恵（明星大学）
4. まとめ	大崎 純（京都大学）

定員：120名（申込み先着順）

参加費（資料代含む）：会員7,000円、会員外8,000円、学生2,000円

※参考テキスト『応用力学シリーズ14：構造最適化の最近の発展と設計への応用事例』
価格未定（上記参加費には含まれておりません）

申込方法：Web事前申込み ▶ <https://www.ajj.or.jp/event/detail.html?productId=625464>

申込締切：2020年5月8日(金)

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見 Tel. 03-3456-2057